

# Aya Wakizono Sings Rossini

脇園 彩 メゾ・ソプラノリサイタル

ミケーレ・デリーア (ピアノ)  
Michele D'Elia, Piano

2024.3.1 [金] 19:00開演  
紀尾井ホール

Friday, 1st March 2024 at 7:00p.m at Kioi Hall

## Message



© Studio Amati Bacciardi

軽妙洒脱、多い音符とスピード感のある音型、どこかシニカルで掴みどころがないけれど底抜けに明るい・・・ロッシーニと聞くと、こんな形容を想像する方が多いのではないのでしょうか。恐らくそれは、彼の絶対的な代表作《セビリアの理髪師》などといった喜劇に起因する印象ではないかと思えます。

ですが実は、作曲家自身が最も力を入れて創作していたのは、芸術的価値の高い正歌劇(悲劇)の作品たちでした。

今日皆さまにお聴き頂くのは、喜劇のそれと比較すると普段耳にする機会の少ない、彼の正歌劇の aria と、宝石のような室内楽曲です。

第一部は《湖上の美人》のヒロインエレナの、第二部は《ピアンカとファッリエーロ》のファッリエーロの、それぞれ登場の aria と最後の aria を最初と最後の曲として、間にはエリザベッタ、デズデーモナ、アンナという魅力的な3人のヒロインをご紹介します。室内楽曲は、彼のオペラとはまた違った一面を垣間見させてくれるでしょう。

ロッシーニは私にとって、キャリア上大きな意味を持っている作曲家であるだけでなく、その俯瞰した視点の高さや芸術家としての精神性に多くを学んだ、ある意味人生のメンターでもあります。とても不思議なご縁を感じていて、新しい曲でもどこかずっと前から知っていたような、家に帰ってきたような懐かしさと心地よさを感じるほど、共感を覚える特別な作曲家です。

2024年2月29日、昨日はジョアキーノ・ロッシーニの58回目のお誕生日でした。

私が心から尊敬する芸術家の魅力を明らかにしていきながら、彼の素晴らしい作品たちとお誕生日を、皆さまと一緒に祝うことが出来る幸運を感じています。

それでは出発いたしましょう!

協園 彩

## Program

## G. ロッシーニ

G. Rossini

歌劇《湖上の美人》より「おお暁の光よ」

"O mattutini albori" from *La donna del lago*

「ひどい女」

Beltà crudele

「吟遊詩人」

Il Trovatore

歌劇《イングランドの女王エリザベッタ》より「私の心にどれほど喜ばしいことか」

"Quant'è grato all'alma mia" from *Elisabetta Regina d'Inghilterra*

「約束」

La promessa

「誘い」

L'invito

歌劇《湖上の美人》より「胸の想いは満ち溢れ」

"Tanti affetti in tal momento" from *La donna del lago*

歌劇《ピアンカとファッリエーロ》より「アドリアのために剣を取るなら」

"Se per l'Adria il ferro strinsi" from *Bianca e Falliero*

歌劇《オテッロ》より「柳の歌～祈り」

"Canzone del salice - Preghiera" from *Otello*

《老いの過ち》第9巻より「我が最期の旅のための行進曲と思い出」(ピアノソロ)

"Marche et Réminiscences pour mon dernier voyage" from *Péchés de vieillesse*

歌劇《マホメット2世》より「神よこの危機のさなかに」

"Giusto ciel in tal periglio" from *Maometto II*

歌劇《ピアンカとファッリエーロ》より「お前は知らぬ、どんなにひどい打撃を」

"Tu non sai qual colpo atroce" from *Bianca e Falliero*

## 協園彩 メゾ・ソプラノ リサイタル ライブ配信・アーカイブ配信

本日の公演はメンバーズTVUチャンネルにてライブ配信されます。ライブ配信はアーカイブ配信として6か月間視聴可能です! アーカイブ配信のチケットは以下よりメンバーズTVUチャンネルにアクセスし、会員登録(無料)後にお買い求め下さい。

■メンバーズTVUチャンネル <https://members.tvuch.com/v/classic/288/>

アーカイブ配信 6か月視聴: ¥2,500(税込) 視聴可能期間: 2024年3月1日(金)より6か月



## Program Notes

| 香原斗志 (オペラ評論家)

今宵のプログラムはオール・ロッシーニだが、従来の脇園が得意としてきたオペラ・プッファ(喜歌劇)からの曲は歌われない。彼女は近年、主にイザベラ・コルブランのために書かれたオペラ・セリア(正歌劇)の役を志し、練習を重ねてきており、満を持して今年、デビューする。それは脇園らしい妥協のない芸術的探求の末に勝ちとられた。

以下はコルブランのための役を中心に、今夏デビューするファッリエーロ役や、オペラ・セリアと同時に書かれた歌曲、オペラの筆を折って間もないころの歌曲を加えた、きわめて知的で意欲的なプログラムである。脇園の高い音楽性と卓越した技巧が前提とされていることは、いうまでもない。

ロッシーニ (1792-1868) Gioachino Rossini

## 《湖上の美人》より「おお暁の光よ」

“O mattutini albori” from *La donna del lago*

ロッシーニは《イングランドの女王エリザベッタ》(1815年初演)から《ゼルミーラ》(同1822年)まで9作のオペラ・セリアを、ナポリのサン・カルロ劇場のために書いた。《湖上の美人》(1819年)は7作目に当たる。9作ともソプラノの役は劇場のプリマドンナで、劇的な声と並外れた超絶技巧を誇ったイザベラ・コルブランを前提に書かれた。その声域はメゾ・ソプラノに近かったと考えられ、ロッシーニの権威であった故アルベルト・ゼッダは、脇園の声をはじめて聴いたとき「コルブランの声だ」と感想を漏らしている。

このオペラはウォルター・スコットの叙事詩が原作で、ロマンティックな色彩が濃い。お忍びのスコットランド王ジャコモ5世は湖畔でエレナに出会い、彼女が反逆者ダグラスの娘と知っても思いを寄せる。一方、エレナは騎士マルコムを愛しているが、ダグラスは娘を反乱軍の首領ロドリゴと結婚させたい。オペラの導入曲のなかで、エレナが湖に船を出しながら夜明けの光を受けて歌うのがこの曲で、情景にふさわしい美しい旋律が円熟の手腕で書かれている。

## 「ひどい女」

Beltà crudele

ロッシーニがナポリで活躍していた1821年、すなわち、オペラ作曲家として創意と靈感にあふれ、名声の頂点にいた時期に書かれた「ひどい女」。オペラ・セリアのアリアを思わせる堂々たる曲で、ロッシーニらしい美感で満たされている。

## 「吟遊詩人」

Il Trovatore

「吟遊詩人」もナポリ時代の1818年、すなわち《湖上の美人》が初演される前年に書かれた。恋しい人への恋歌を歌いながらも満たされない思いを、吟遊詩人にたとえて歌った詠み人不知の歌詞に作曲されている。3拍子のリズムカルな曲だ。

## 歌劇《イングランドの女王エリザベッタ》より「私の心にどれほど喜ばしいことか」

“Quant'è grato all'alma mia” from *Elisabetta Regina d'Inghilterra*

23歳のロッシーニが、ナポリのために作曲した最初のオペラ・セリア。ヒロインのエリザベッタ(エリ

ザベス1世)は、寵臣レイテュステルを愛しているが、彼は密かに女王の敵メアリー・スチュアートの娘と結婚している。レイテュステルがそのことを、親友のノルfolkに告白すると、秘密は女王にバラされてしまう。

女王は第1幕冒頭で、レイテュステルがスコットランドに勝利して凱旋したのをよここび、彼との再会に胸を高鳴らせてこのカヴァティーナを歌う。かなり技巧的な曲で、後半のカバレッタはのちに《セビーリヤ理髪師》のロジーナのカヴァティーナに転用された。《チェネレントラ》のロンド・フィナーレにつながるメロディも現れる。脇園は今年10月、パレルモのマッシモ劇場でこの役にデビューする。

## 「約束」

La promessa

《ギヨーム・テル》(1829年初演)を最後にオペラ作曲から引退したロッシーニは、しばらくパリに住んだ。そこで私的サロンなどのために書きためた曲から、8つの独唱曲と4つの二重唱を選んで1835年に出版したのが《音楽の夜会》である。今宵はそこから2曲が歌われる。

「約束」はその第1曲のカンツォネッタ。18世紀の台本作家ピエトロ・メタスタージオの詩に作曲され、「あなたを愛さなくなることなんて、ない、ない」と、妻への愛が歌われている。ちなみに、このころロッシーニはコルブランとの結婚生活が破綻し、パリの高級娼婦オランプ・ペリシエと愛し合うようになっていた。

## 「誘い」

L'invito

《音楽の夜会》の第5曲に収められた「誘い」。ペーポリ伯爵による、女性が「来て、私の願いを受け入れてください」と愛を激しく告白する詩に、スペインの舞曲「ボレロ」のリズムで作曲された。感情の起伏が、激しいアクセントの変化によって描かれる。

## 歌劇《湖上の美人》より「胸の想いは満ち溢れ」

“Tanti affetti in tal momento” from *La donna del lago*

《湖上の美人》のフィナーレ。ジャコモ5世によって父がゆるされ、愛するマルコムへの恩赦もあたえられたエレナが、よここびと王への感謝を歌う。後半はロンド形式で書かれ、主題がさまざまに変奏されながら反復し、高ぶる気持ちが表現される。2オクターブを超える広い音域で、至難の裝飾歌唱が華麗に表現される。



## 歌劇《ビアンカとファッリエーロ》より「アドリアのために剣を取るなら」

“Se per l'Adria il ferro strinsi” from *Bianca e Falliero*

《湖上の美人》が初演された2カ月後、ミラノ・スカラ座で舞台にかかった《ビアンカとファッリエーロ》。舞台は17世紀のヴェネツィアで、凱旋した將軍ファッリエーロは、思いを寄せているビアンカに求

## Program Notes

婚するが、彼女は裕福なカベッリオと政略結婚させられることに決まっていた――。

ファッリエーロは男装コントラルトの役だが、事実上メゾ・ソプラノの音域で、最高音はC(高いド)に達する。協園は今年8月、ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルでこの役にデビューする。これは第1幕で凱旋したファッリエーロが、祖国のためにいつでも命を投げ出す用意があることを歌うカヴァティーナ。執拗なほどに超絶技巧が繰り返される。

### 歌劇《オテッロ》より「柳の歌～祈り」

“Canzone del salice～Preghiera” from *Otello*

ロッシーニがナポリのために書いた2つ目のオペラ・セリア《オテッロ》。サン・カルロ劇場が焼失したためフォンド劇場で初演された。フランチェスコ・ペリオ・ディ・サルサの台本は、シェイクスピアを直接参照していないので、原作やヴェルディの同名作とのあいだにかなりの異同がある。とくにイアゴの比重が小さく、オテッロの恋敵ロドリゴの存在感が大きい。

オテッロに罵倒され悲しみを抱えるデズデーモナは、死の予感にとらわれ、昔、男に捨てられた少女が柳の根元で息絶えたことを、4節からなる有節形式の叙情的な「柳の歌」で歌う。続いてアダージョがラルゲットに変わり、「祈り」が歌われる。

### 《古いの過ち》第9巻より「我が最期の旅のための行進曲と思い出」(ピアノソ)

“Marche et Rémiscences pour mon dernier voyage” from *Péchés de vieillesse*

ロッシーニが晩年、自宅のサロンなどで披露した多彩な小品が、ピアノ曲のほか声楽曲から室内楽曲まで全14巻に収められている《古いの過ち》。その第9巻の7曲目に収められているのがこの曲だ。ロッシーニが名声を獲得した主要なオペラからの抜粋で構成されるが、これら世俗の名声では天国の門は開かず、最後に自分自身をさらけ出すと、はじめて門は開く――。

### 歌劇《マホメット2世》より「神よこの危機のさなかに」

“Giusto ciel in tal periglio” from *Maometto II*

ナポリのための8作目のオペラ・セリア《マホメット2世》(1819年初演)。マホメット2世率いるオスマン・トルコ軍に包囲されたヴェネツィア領ネグロポンテが舞台で、総督の娘アンナが、かつて別人と思って愛したマホメットへの愛と、祖国への義務のあいだで引き裂かれる。

これはフィナーレを前にして、アンナは自分が生贄になることを覚悟し、神に祈って歌う(「祈り Preghiera」)。美しい三連音に彩られて、感動的に表現される。

### 歌劇《ビアンカとファッリエーロ》より「お前は知らぬ、どんなにひどい打撃を」

“Tu non sai qual colpo atroce” from *Bianca e Falliero*

《ビアンカとファッリエーロ》の第2幕、ビアンカと逢引きしていたファッリエーロは、彼女の父が来るのでスペイン大使館に逃げるが、そこで逮捕される。連行されたファッリエーロが、死刑を覚悟して歌うのがこのアリアだ。初演した歌手の高い能力を反映し、男装コントラルトとしてはかなり広い音域にわたって、複雑で多彩な装飾歌唱が表現される。

## Profile



### 協園 彩 (メゾ・ソプラノ) ●Aya Wakizono, mezzo-soprano

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。2013年文化庁派遣芸術家在外研修員としてバルマ国立音楽院に留学。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルのアカデミー及びミラノ・スカラ座アカデミー修了。すでにミラノ・スカラ座をはじめ、パレルモ・マッシモ劇場、マドリド・テアトロレアル、マインツ州立劇場、リエージュ・ベルギー王立ワロニー歌劇場、ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルなど出演多数。

日本では2017年、藤原歌劇団《セビリアの理髪師》ロジーナ役でオペラデビュー。新国立劇場には2019年《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・エルヴィーラ役で出演以来、2020年《セビリアの理髪師》ロジーナ役、2021年《フィガロの結婚》

ケルビーノ役、2023年《ファルスタッフ》メグ役で出演。2021/22シーズン開幕公演の《チェネレントラ》ではタイトルロールで出演しその圧倒的な存在感と卓越した歌唱で聴衆を魅了した。

2023年、ファーストアルバム『アモレAmore』(BRAVO RECORDS)がリリース。11月にはポローニャ歌劇場来日公演《ノルマ》アダルジーザ役で出演し絶賛された。

2024年は、ジュネーヴでドニゼッティ《ロベルト・デヴェリュー》サラ役、ペーザロで《ビアンカとファッリエーロ》ファッリエーロ役、パレルモで《イングランド女王エリザベッタ》エリザベッタ役でそれぞれデビューを予定している。主にロッシーニ、モーツァルトおよびベルカント作品をレパートリーとしてイタリアを拠点に活動し、世界中から注目されるアーティストのひとりである。

2022年第52回ENEOS音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。



### ミケーレ・デリーア (ピアノ) ●Michele D'Elia, piano

レッツェの国立ティート・スキーパ音楽院ピアノ専攻及びミラノの国立ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院室内音楽専攻を卒業し、スポレート歌劇場、ミラノ・スカラ座アカデミーで研鑽を積む。

現在コレペティートル及びプロダクションスタッフとして、ヨーロッパの著名な音楽祭、劇場などで多数の公演に携わる。また、コンサートピアニストとしても、

定期的に著名なアーティスト及び重要な機会において演奏活動を行なっている。類まれな音楽性と力強く美しい音を持つコンサートピアニストとして、また、声への理解の深さ、確かな審美眼と的確な助言でコレペティートルとしても多くの歌手からの信頼が篤く、偉大な音楽家たちのマスタークラスにも携わる。

ヴェロニカ・シメオニと《Voix d'Espoir》、エリサ・バルボと《Lunaria》(Illiria プロダクション)、それぞれCDをリリース。レパートリーは多岐にわたるが、特に、ジョアキーノ・ロッシーニのオペラについては造詣が深い。



BRAVO RECORDS  
BRAVO-10011 ¥3,300 (税込)

1. ジョルダニー：カロ・ミオ・ベン
2. トスティ：最後のロブけ
3. ペッリーニ：激しい希求（いつその日は訪れるだろう）～  
（3つのアリエッタ）より
4. ペッリーニ：せめて私にかなわぬなら～（6つのアリエッタ）より
5. ペッリーニ：喜ばせてあげて～（6つのアリエッタ）より
6. ペッリーニ：追憶
7. メルカダンテ：どんなに感謝していることか、おお平和よ！  
（パオロのカヴァティーナ）～歌劇《フランチェスカ・ダ・リミニ》より
8. ロッシーニ：今の歌声は～歌劇《セビリアの理髪師》より
9. モーツァルト：あの人でなしは私を欺き～歌劇《ドン・ジョヴァンニ》より
10. ロッシーニ：苦しみと涙のうちに生まれて～歌劇《ラ・チェネレントラ》より  
リスト：《ペトラルカの3つのソネット》
11. 第1番 平和は見出せず
12. 第2番 祝福があるように、かの日
13. 第3番 私は地上に天使のような姿を見た

セッション録音：2022年10月11～13日 /  
府中の森芸術劇場・ウィーンホール

好評発売中!

アモーレ  
AYA WAKIZONO

Amore

脇園彩 (メゾ・ソプラノ) 丸山貴大 (ピアノ)

イタリアを拠点に、  
国際的な活躍をつづける脇園彩、初のCDリリース！  
36ページ・フルカラー解説書、  
脇園彩による歌詞対訳掲載！！



\*Amazonなどのネットショップ、  
全国のCDショップでお買い求めください。  
←こちらからも購入できます。

発売：株式会社ぶらあぼホールディングス 販売：株式会社キングインターナショナル

©Studio Amati Baccardi